

テラセル擁壁工法の作業手順書

項 目	内 容	留 意 事 項
準 備 工	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容の確認 作業人員の確認 保護具の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 規制内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 指示書の内容確認 安全打合せ書による。 作業別安全チェックシートの活用。 KY活動
仮設工・丁張り等	<ul style="list-style-type: none"> ラフタクレーンを使用する際、アウトリガー張り出し部の地盤が軟弱な場合、敷き鉄板等の養生を行う。 平面図、横断面を確認し、掘削箇所に丁張を設置する。 側道上での作業を行う場合は交通規制材及び交通誘導員の配置する。 支障木等がある場合は状況により除去する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現地の状況を確認し、敷き鉄板等の補強を行う。 クレーン作業、玉掛作業は有資格者による作業で行う。 合図者、作業指示者を指名しそれぞれの指示の下行う。近隣住民の方々には注意を払う。 図面から掘削位置を確認をし丁張を設置する。設置後、現地の状況を含め調整する。 道路使用許可申請を出してある場合は申請書通りに規制材及び交通誘導員が配置されているか確認する。 高さ2m以上もしくは急斜面の場合は親綱を張り転落防止対策を行う。
法面掘削・床掘り	<ul style="list-style-type: none"> 重機にて丁張り通りに法面掘削・床掘りを行う。床均しは人力にて行い不陸整正する。 床均し完了後、転圧機にて転圧し床付けの出来形を確認する。 掘削法面には落石等落ちないように落石防止ネットを設置し養生する。 残土はクレーンと連携しながら搬出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 重機の作業前点検及び法面点検を行い、安全確認を行う。 重機は有資格者による作業で行う。法面上なので重機足場の確認を常に進行。 丁張り及び図面通り掘削できているか、過掘りしていないか定期的に確認する。 落石防止ネットは必ず設置し、転石等ある場合は除去する。 合図者、作業指示者を指名しそれぞれの指示の下行う。近隣住民の方々には注意を払う。
テラセル展開	<ul style="list-style-type: none"> 補助枠でテラセルを規定の大きさに展開させる。 展開したテラセルを所定の勾配に設置する。 テラセル同士は専用のビスとセルロックでジョイントする。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁張り通りの位置や勾配に設置されているか確認する。 高さ2m以上の場合テラセル前面に手摺付き足場、昇降設備を設置し、転落、墜落防止を図る。
中詰め材投入	<ul style="list-style-type: none"> クレーン及び重機にて中詰め材をテラセル内に投入する。 均一に中詰め材を敷き詰め転圧機にて転圧する。 裏込み材も上記同様の作業で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 合図者、作業指示者を指名しそれぞれの指示の下行う。 丁張り及び図面通りの勾配できているか定期的に確認する。 高さ2m以上の場合テラセル前面に手摺付き足場、昇降設備を設置し、転落、墜落防止を図る。
吸出し防止材・補助鉄筋設置	<ul style="list-style-type: none"> 排水材として、吸出し防止材を設置する。(床付けに使用する場合もある) 上下の一体化を高める為、6段ごとに2本/m²の鉄筋D19を打設する。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁張り通りの位置に設置されているか確認する。 図面通りの箇所に設置できているか確認する。 高さ2m以上の場合テラセル前面に手摺付き足場、昇降設備を設置し、転落、墜落防止を図る。
クワック抑制材・ジオセルバッグ設置	<ul style="list-style-type: none"> クワック抑制材を天端から1段下の位置に設置する。 天端保護の為、ジオセルバッグを設置し樹脂アンカーピンで固定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図面通りの箇所に設置できているか確認する。 高さ2m以上の場合テラセル前面に手摺付き足場、昇降設備を設置し、転落、墜落防止を図る。

法面整形	<ul style="list-style-type: none"> 既設法面とテラセル擁壁との接合部や天端の擦り付け部分を法面整形する。 場合によっては植生土嚢等に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状に合わせて滑らかに擦り付けるように注意する。
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 規制材の撤去や使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうきなどで清掃する。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 材料かすが無い様に、綺麗に清掃する。

作業編成(標準)		機材		資材	安全器具・保護具	
作業責任者	1名	ラフタークレーン16t級	レベル		ヘルメット	チャップス
現場監視員	1名	バックホウ0.1m ³ 級	トールステーション		反射(自発光)チョッキ	プロテクター
作業員	5名	振動プレート	リボンロッド		警笛	落石防止ネット
交通誘導員	2名	コンクリートバケット	スタック		防塵マスク	
		ワイヤーモック	発電機		保護メガネ	
		スコップ	ハンマートリル		耳栓	
		竹ぼうき	インハクトラバー		耐切削用手袋	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテナンス古屋担当者に報告・相談する。

■注意事項(共通の指導事項)

- 1.作業に合った保護具を使用する。
- 2.各作業は、有資格者による作業を行う事。
- 3.火災防止処置を行う事。(消火器の設置)
- 4.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 5.施工箇所が団地である為、近隣住民の方々に注意し一般車両優先で走行する。
- 6.団地内は20km以下で走行する。
- 7.一人作業の禁止